

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝の朝礼の最後に法人の経営理念を読み上げ、理想の介護を目指し、理念を共有している。	法人の理念を支援の柱とし、毎年度全職員に法人の小手帳が配布され、その手帳の「経営方針書」の重要部分を毎朝朝礼にて唱和し、理念などの実践に努めている。事務所にはスローガンが貼りだされ、家族には入居時パンフレットを渡し説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の保育園の園児の卒園式に入居者が作った物をプレゼントし交流したり、ボランティアの方たちと塩尻市のブドウ園へ遠足に行ったりと地域社会と交流している。	自治会費を納め地域の防災訓練に参加し、万が一に備え地元の組に住民者名簿を提出している。地域の情報誌「波田町通信」を組長に届けていただき、その中から地域の情報を把握している。近くの保育園との交流が行われ、高校生の職場体験も受け入れており、ボランティアと外に出かけ地域の人々と交流している。ホーム便り「波田タイムス」を見学に来られた方に渡し、ホームについて理解をしていただくようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症の研修に参加、講習を受講し、入居者の家族やその周辺の人々に認知症についての知識、情報を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域の人々、包括支援センター等からの意見、アドバイスを謙虚に受け止め、サービス向上へ取り組んでいる。	町会長、民生委員、隣組長、西部包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、ホーム管理者・介護主任が出席し2ヶ月に1回、第4火曜日夜に実施している。入居者の状況報告、職員の状況や行事について報告した後、意見交換を行い、アドバイス等も受けサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	松本市役所高齢福祉課と連携をとり、市主催の研修に積極的に参加をしている。	市主催の研修に参加しており、福祉避難所開設の研修にも参加した。市からのアンケートへの回答や連絡事項は電話、メール等で密に取り合っている。介護相談員の月1回の訪問があり、利用者と話をし、その内容は報告ファイルに綴じられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在当施設には身体拘束をしている入居者が2名おり、毎月1回身体拘束委員会を開催し、できるだけ身体拘束がなくなるように話し合っケアを心掛けている。	玄関は開錠されており、空間センサーを使用している。転落防止のベットの使用については医師や家族と話し合い、また、身体拘束委員会も毎月開催し検討を行い、家族の依頼から使用しているが、最近では利用者も落ち着いているという。センサーマットや空間センサーについても家族の了承を得て使用しているが毎月の職員全体会議で話し合い、拘束しないケアに向けて全員で取り組んでいる。	

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待が無いように、入居者の身体の痣等の怪我を見逃さないように各職員の話に耳を傾けている。また言葉の虐待がないように、職員の言葉使いにも注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去にこの施設でも成年後見人を立てた入居者が居た。今後も研修等に参加し、制度の知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族らと契約書、重要事項説明書らの読み合わせをし、将来重度化したときの看取りについても話し合い、同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から直接頂いた意見やご意見ご要望箱に入った用紙を活用し、施設会議に反映するようにしている。また家族会も催している。	ほとんどの利用者が思いを伝えることができ、意見や要望を聴くよう心掛け、その内容について全体会議で話し合っている。家族の来訪は毎週の方から月1回、年数回と様々であり、来訪時や電話で意見や要望を聞いている。ぬり絵やドリルの好きな利用者の家族からやらせてくださいと家族が持参されることもあり、利用者が居室でやられている。家族会もあり、毎回家族の出席があり、意見や要望等をお聞きし運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社から全従業員へ意識調査アンケートを実施し、各従業員の意見、重い調査している。また職員から施設への意見は会議の議題に上げ話し合っている。	職員の意識調査アンケートは法人として集約され、分析した結果が管理者会議で報告され、ホームの月1回の全体会議でも話をしている。人事考課制度の目標については年2回自己評価をし、管理者と面談も経てスキルアップに繋げている。法人のエリア長が週1回来訪し、面談する職員もいる。管理者や職員間で些細なことについても話し合い、利用者が満足する丁寧なケアに心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行ない、各職員が目標を立て実施しているか公平に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修参加を奨励し、月1回の社内研修を実施している。		

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本市高齢福祉課主催の研修会や波田包括支援センター主催の地域連携会議に参加し同業者と交流し、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学、初回の面談などで丁寧に本人、家族と関係を作り、相談できるように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、初回の面談などで丁寧に本人、家族と関係を作り、相談できるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談し、必要な介護サービス、必要な施設を話し合い、無理なGHへの入居を誘わず、他施設(特養、老健等)を勧める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームとは家庭の延長の上にある施設と考え、生活の場であることを職員間で共有し、利用者と一緒に清掃、食事作りなど家事を行うことを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は利用者本人をグループホームにただ預けていると考えず、離れてすむご家族も度々面会、外出、外泊などを通し、職員と一緒に支えていると考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の昔ながら知人、旧友が訪問、面会し、交流の場としての施設を考えている。	知人や友人の来訪について家族から連絡があり、フロアで話されている。お盆にお墓参りに出掛けたり、法事で出掛ける方、連れ合いの入所している施設に会いに行く方もいる。近くの理髪店が月1回来訪し、利用者とも馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や認知症の程度など様々な事情があり、利用者間でのトラブルのないように、職員が気が合いそうな利用者を気軽に話す事ができる席を検討している。		

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された人だけでなく、事情があってグループホームを退所される本人、ご家族にも、退去後も相談ができる関係作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を大切にしたケアプランを作成するため、入居段階また定期的に本人の生活の悩み事、趣味嗜好などを丁寧に聞いている。	大半の方は思いや希望を伝えることができる。言葉での表現が難しい方については入居時に家族からお聞きした生活歴や来訪時の話より利用者の思いを汲み取っている。食事介助や入浴時に職員が1対1で利用者とは話すことも多い。利用者の心身の状況はタブレットに入力し職員間で共有し、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居応募の面談の段階で、家族には本人がこれまで生きてきた生活歴を聞き、グループホーム内でできるサービスを検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活のリズムは様々で朝方の方、夜型の方がおり、一日の過ごし方、心身の状態を会議の中で話し合い、本人にあったサービスに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と面談し、それぞれの意向に反映したプラン作りを考えるが、サービス担当者会議における職員の意見が反映できていないところがあり、一部の職員だけによるものになっている。	職員は1~2名の利用者を担当している。職員は勤務シフトに沿い1階、2階を日により担当し、フロアの介護主任が主となりその日の体制を組んでいる。本人や家族の意向を反映した介護計画を立て、モニタリングは全体会議で行い、見直しは年1回、状態に変化が見られた場合にはその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は丁寧に記入し、職員間で情報を共有しているが介護計画に直接生かされていることが少ない。もっとケア会議に反映できるようにしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	秋のぶどう狩りなど地域のボランティアの方の参加や連携ができてはいるが、まだまだ他のサービスが不足している。もっと柔軟に考えていきたい。		

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋のぶどう狩りなど地域のボランティアの方の参加や連携ができていますが、まだまだ他のサービスが足りない。もっと柔軟に考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年1回の健康診断、月1回の往診など主治医の受診支援をうけている。外来受診に対しては基本家族が対応しているが、やむ得ない場合は施設対応をしている。	全利用者がホーム協力医による月1回の往診と年1回の健康診断を受けている。看護師もおり、健康チェック、薬の管理、排便コントロール、協力医への連絡等を行っており、家族も安心している。歯科医は月1回検診のため来訪し、口腔ケアの指導も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の心身の異常について、施設内の看護師に相談し、適切な対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、病院へ医療と介護の連携情報提供書を送り、施設内での日々の生活状況を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居段階で看取りについて同意書を頂き、重度化、終末期に近づいた時には再度家族、本人の意向を確認している。	重度化や終末期の指針があり、利用契約時に詳細に説明し同意をいただき希望を聞いている。更に、その状況に至った時には再度確認し、意向に沿った支援を行っている。看取り経験も多く今年になり4名の方の看取りを行った。協力医療機関の医師、看護師と連絡を密に取り、職員研修や全体会議で話し合い最期に備えている。看護師によるエンジェルケアも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回程度、地域の消防職員を呼び、消防訓練時に救急処置(AEDの使用方法など)の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議や地域主催の防災訓練に参加し、いざという時のため職員による緊急連絡網の練習も行っている。	年2回消防署の協力を得て防災訓練が行われている。通報・消火・避難誘導等を行い、連絡網の確認もしている。担架を使つての訓練やAED使用についての講習も行われている。今後、夜間想定訓練も考えている。食料品、介護用品など、3日分の備蓄がされている。	

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の経営理念に沿って、接遇について研修も行って、各職員へ教育している。	法人の接遇マナー研修に沿い、敬うことを大切に、研修や全体会議で話し合いケアに努めている。利用者の声かけは苗字に「さん」をつけ、同性の方には下の名前でお呼びしている。職員の優しい声かけで、入居時に言葉のきつかった利用者も家族が驚くほど落ち着かれているという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に沿えるようなサービス提供を目指しているが、利用者各人の希望を全てかなえることは難しい。できるだけ希望をかなえるように工夫したい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に沿えるようなサービス提供を目指しているが、利用者各人の希望を全てかなえることは難しい。できるだけ希望をかなえるように工夫したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃から朝の起床時の整容には心がけ、衣服に対しても清潔であるように心掛けて着替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症の程度にも寄るが、生活の場の延長であるグループホーム生活を生かすため、利用者には簡単な調理、準備、食後の食器拭きなど手伝っていただき、残存能力を低下しないようにつとめている。	一人ひとりの持てる力を大切に、その人にあった作業をお願いしている。食材は専門業者より配達され、写真付きレシピに作り方も書かれわかり易くなっている。食作り専門の調理員がいる。一部介助の方もいるが、全員箸を使い職員も同じ食事を会話しながら食べている。行事食や特別メニューがあり、母の日には「海鮮丼」が、また、ぶどう狩りの時には「手作り弁当」を持ち出掛けるなど、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材調達は外部会社に依頼し、そこで栄養管理されたメニューのレシピが渡され、職員が調理をしている。水分摂取は職員が食事やおやつ時に観察し、異常がみられるようなら記録し共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	認知症の程度にも寄るが、介助が必要な利用者は毎食後口腔ケア介助し、口腔内の状態を把握、また月に1度協力医である歯科医が往診し、健診、治療を行う。		

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの自立支援を目指し、排泄パターンを把握し、本人に不快のないように心掛けている。	自立の方が半数、全介助の方が三分の一弱で、他の方は一部介助という状況で、布パンツ使用の方もいる。排泄表を参考に声がけし自立支援に取り組んでいる。1日おきにヨーグルトを提供し排便コントロールにも努力している。トイレの場所は大きく「トイレ」「お便所」と表示されておりわかり易くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と相談しながら便秘にならないように排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設都合（職員不足のため）で入浴時間は決められた日中の時間で行われ、週2回の入浴日も各利用者によって日にちが決められている。もっと各利用者の意向に沿った入浴サービスを検討したい。	自立の方と全介助の方がそれぞれ数名で、他は一部介助となっている。現在、「月・木」「火・金」の2パターンで10:00頃から入浴している。1階と2階の浴室の形状、浴槽の深さが異なるため利用者に応じ浴室を使い分けている。入浴を拒む方には時間や声がけを変え入浴している。また、足湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠剤を使用せず、気持ちよく就寝していただきたいが、現実には眠剤に頼っているところがある。本人の生活習慣にそくした支援をしたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と協力し、薬の種類、特徴を指導して頂くが、実際は全職員にいきわたっていない。誤薬の無い様に注意し、服薬チェックを工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ただ食事、排泄、入浴だけの介助するだけでなく、その人にあった生き甲斐のある生活を支援していかなければならないが、まだ不十分である。生活歴を鑑みて支援していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在施設では職員不足の為、利用者全員に付き添える満足いくような外出支援はできていない。家族と協力して、外出、外泊ができるように努めている。	年間行事予定表があり季節に合わせ「お花見」「花火大会」「ぶどう狩り」に出かけ、天気の良い日にはドライブにも出掛けている。玄関先のベンチで外気浴をしたり、庭の草取り、水くれ、買物、散歩などで気分転換している。また、受診時に食事をして来る利用者もある。	

グループホームエフビー波田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在施設では一部の利用者を除いて、金銭の所持をしないようにしている。家族の協力の下、家族対応で外出時、買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の同意、許可を得て、本人からの電話連絡支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内では季節を感じさせる花を用意したり、また壁などに季節にあった装飾品や絵を飾ったりつとめている。また排泄時の不快な尿臭便臭はすぐに消臭できるように工夫している。	共有スペースは過度の飾り付けがなくすっきりしており、額に入った多くの絵画が飾られ、利用者と職員で作った野菜の絵の作品が目を引きいていた。また、掃除も行き届き、広々としたリビングルームや畳コーナーで寛いだり作業も行われており、明るく、爽やかな場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が話し合い、気の合う利用者同士が談笑し楽しめるようにまた利用者間のトラブルが無い様に食堂の席を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居時、本人、家族が使い慣れた家具、仏壇、思い出の品など、居心地よく過ごせるように自宅から持って来ていただくことを伝えている。	居室入口には表札、額入り絵画が飾られている。居室にはベット、洗面台、クローゼットが備え付けられ、家族写真やテレビ、机、仏壇等も持ち込まれている。掃除も行き届いており心地良い環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身ともに障害がある利用者が生活できるように居室、廊下、トイレ、浴室にバリアフリーの工夫がなされている。		